小樽市立病院　各診療科研修プログラム

令和３年度

呼吸器内科・・・・ 1
消化器内科・・・・ 2
循環器内科・・・・ 4
糖尿病内科・・・・ 6
腎臓内科・・・・ 7
神経内科・・・・ 8
外科・・・・ 9
心臓血管外科・・・・ 11
脳神経外科・・・・ 12
整形外科・・・・ 13
形成外科・・・・ 15
精神科・・・・ 16
小児科・・・・ 18
皮膚科・・・・ 20
泌尿器科・・・・ 22
産婦人科・・・・ 24
眼科・・・・ 26
耳鼻咽喉科・・・・ 27
放射線診断科・・・・ 28
放射線治療科・・・・ 29
救急（麻酔科）・・・・ 30

注：各プログラム中、「Ⅲ　指導医」は令和２年４月１日時点の内容であり、
（　　）内は指導医講習会の受講年月日。

小樽市立病院　呼吸器内科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　８週以上（内科一般外来研修を含む）

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

呼吸器内科の病棟・外来の診療をスタッフとともに行うことを通じて、基本的な診療能力（態度、技能、知識）を習得する。

① 呼吸器疾患診療の前提となる肺の正常解剖・呼吸生理の理解ができる。

② 呼吸器疾患患者の問診・身体所見をとることができる。

③ 呼吸器疾患の診療に必要な検査・治療手技、検査結果・所見の解釈方法が理解できる。

④ 呼吸器疾患の治療・管理に参加できる。

Ⅲ　指導医

医療部長　　汐谷　心　（平成２８年１２月４日）

医長　　多屋　哲也（平成２３年９月２５日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来	カンファレンス	外来	外来	病棟
午後	検査 病棟	検査 病棟	検査 病棟	検査 病棟	検査 病棟

・カンファレンスにおいて患者の経過と問題点を挙げて説明し、問題点への対応を考える訓練を行う。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の外来診療を見学し、ときに初期診察を行い鑑別診断を挙げて検査プランを組む。

（２）　病棟研修

指導医・上級医と共に入院患者を受け持ち、基本的な診察法・検査法・検査結果の解釈・治療・患者への対応を研修する。

小樽市立病院　消化器内科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　８週以上（内科一般外来研修を含む）

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

当科の研修では、将来性のある魅力的な消化器病学を通じて、医師としてのプロフェッショナリズムはもちろん、科学としての医学に接し、アカデミズムを体感することが可能である。

また、以下の経験を通じて消化器疾患を中心とした基本的知識や、技能・態度等の基本的臨床能力及び全人的医療を身に付けることを目標としている。

① 消化器疾患の基本的診察法を習得する。
　病歴聴取、身体所見の取り方

② 消化器疾患に関する検査法を理解し、実技を経験する他、所見を判断する。
　尿、糞便、血液・生化学検査、肝機能、膵機能、腹部超音波検査、消化管Ｘ線検査、内視鏡検査（上部・下部・胆膵）、肝生検、血液造影等

③ 主な消化器疾患の診断に関する知識を習得し、実践する。
　病態生理の理解、画像診断、病理診断、癌の進展度診断

④ 主な消化器疾患の治療に関する知識を習得し、実践する。
　生活指導、食事療法、薬物療法、輸液、内視鏡治療、手術適応の決定、消化器癌の化学療法

Ⅲ　指導医

副院長　　有村　佳昭　（平成２８年１０月２日）
　　（プログラム責任者養成講習会　平成２９年１０月２８日）

医療部長　　矢花　崇　（平成２５年７月２１日）

医長　　鈴木　亮　（平成２８年１月３１日）

Ⅳ　研修内容

１　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の下で週１回（計４回程度）、数名の新患患者の問診、診察、検査オーダー、結果説明、処置・処方等を実際に体験し、評価のフィードバックを受ける。

（２）　病棟研修

主治医と共に受け持ち患者を実際に診療し、基本的な診察法・検査法・治療法を学び、患者への対処法を研修する。

―指導医より―

我々の教育の眼目は、相手の魂に火をつけて、その全人格を導くことと考えている。

医学生から理想の医師に進化を遂げる一番の近道は、目標となる尊敬する医師との出会いに尽きる。

当科でのそうした「出会い」に期待している。

2　週間予定表

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来
午後	病棟回診 内視鏡検査･救急外来 15:00～ カンファレンス 16:00～ 総回診	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来	病棟回診 内視鏡検査･救急外来
その他				17:00～ カンファレンス	

・毎週月曜日は、全入院患者のカンファレンスで担当患者のプレゼンテーションを行った後、総回診に参加する。

・毎週木曜日は、内科・外科合同のカンファレンスでプレゼンテーションを行い、広い視野での議論に参加する。

・終日救急対応の指導医・上級医とともに、救急患者に対する基本的な診察法・検査法・治療法を学び、その対処法を研修する。

小樽市立病院　循環器内科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　８週以上（内科一般外来研修を含む）

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

循環器疾患について広く全般的に理解し、的確な診断・検査・治療ができるようになるための必要な知識や技術を習得する。

Ⅲ　指導医

主任医療部長　　髙川　芳勅　（平成２２年１月２４日）
（プログラム責任者養成講習会　平成３０年１１月３日）

医療部長　　古川　哲章　（平成２７年１１月１５日）

医師　　斉藤　礼　（令和２年２月２日）

Ⅳ　研修内容

1　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
8：30～9:00	抄読会	カテーテルカンファレンス	退院カンファレンス	カテーテルカンファレンス	病棟カンファレンス
9：00～17：00	心カテ 外来 病棟	外来 病棟	心カテ 外来 病棟	外来 病棟	心カテ 外来 病棟
その他	＊急患対応は適宜 →				
	＊時間外救急への参加は任意 →				

・主なカンファレンスは朝 8:30～9:00 に行う。

・月曜日は抄読会を行い、月１回程度、指導医・上級医の指導の下で研修医も発表する。

・火・木曜日は心臓血管外科と合同でカテーテルカンファレンスを行い、検査後の治療方針などを決定する。

・水曜日は退院カンファレンス、金曜日は病棟カンファレンスを行い、担当医を含む全医師で診断・治療を検討する。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

循環器内科の外来では、心臓血管系疾患に加えて生活習慣病など慢性疾患の管理が中心となり、加えて狭心症、不整脈、心不全など専門的診断技術を要する循環器疾患の精査加療依頼や他診療科の術前評価依頼も多い。

原則、予約診療としているが、緊急性の高い病態や二次救急には随時対応を求められる。受診者数も多く、内科系では唯一平日の午前午後全ての枠で診療を行っており、研修医は指導医・上級医の外来診療を見学し、初診患者の問診を担当するほか、救急外来で指導医・上級医とともに循環器急性期疾患の初療を経験する。

専門外来として禁煙外来を行っており、希望者は見学可能である。

（２）　病棟研修

循環器内科の病棟は、基本的に当診療科と心臓血管外科専用の心臓血管センターとして機能しており、ICU、SCU と並んで緊急性・専門性の高い病棟であることから、循環器領域の急性期から慢性期までの幅広い病態・疾患を指導医・上級医の下で経験し、診断・治療の実際を学ぶこととしている。

また、慢性心不全など入院期間が 1 ヶ月以上に及ぶ患者もいる一方、検査・手術入院などクリニカル・パスによる短期入院も多く、平均在院日数が 10 日弱と短いことから多くの症例を経験できる。

当院の心電図・心血管エコー・血管/冠動脈 CT・心臓核医学・心臓 MRI などの診断機器は大変充実しており、虚血性心疾患治療の柱である選択的冠動脈造影及び冠動脈インターベンションは月・水・金曜日の週 3 回のスケジュールで行い、研修医は助手から始めて習熟度に応じて検査・治療手技の一部を経験できる。

他にも心肺蘇生、動脈穿刺・ルート確保、中心静脈カテーテル挿入、一時的・永久的ペースメーカー留置などの手技を適宜経験することができる。

小樽市立病院　糖尿病内科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4週以上

Ⅱ　概要と研修目標

増加の一途をたどる糖尿病患者に対して、臨床症状、臨床検査所見、病態を理解し、各診療科や他職種と協力しながら、診断・治療・管理ができる。

Ⅲ　指導医

医長　　小梁川　直秀　（平成２９年２月１２日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来（出張医）	外来
午後	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
その他		月１回　糖尿病ケアチームカンファレンス	糖尿病教育入院患者がいる週はカンファレンス		

・糖尿病教育入院患者がいる週は、教育入院カンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、他職種と協議しながら治療方針を決定する。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

新患患者の病歴聴取、身体所見、臨床検査所見等から判断し、患者個別の治療計画を立てることができる。

習熟度によっては指導医・上級医指導の下で新患外来診療を行うことができる。

（２）　病棟研修

当科及び他科の入院患者の血糖コントロールを行うことで、インスリン製剤や経口血糖降下薬の選択や調整について理解を深めることができる。

小樽市立病院　腎臓内科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4週以上

Ⅱ　概要と研修目標

当科では、糖尿病・高血圧による慢性腎臓病、IgA 腎症・ANCA 関連腎炎等の免疫疾患、微小変化型ネフローゼ・膜性腎症、そして、病院内外で発生した急性腎障害についての診療を行っている。

血液透析については、透析導入及び維持透析についても行っている。

病院の規模としても大き過ぎず小さ過ぎず、まんべんなく腎臓病全般にわたる診療についての研修が可能である。

Ⅲ　指導医

医療部長　　山地　浩明　（令和元年９月２３日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来	透析回診	透析回診	病棟回診 透析回診	外来
午後	病棟回診 透析回診	13：00～ 病棟カンファレンス 病棟回診	病棟回診		病棟回診 透析回診

・週に１回、入院患者について、病棟スタッフとのカンファレンスを行っている。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

外来患者について、問診・検査方法を学び、優れた診療方法を身に付ける。

（２）　病棟研修

できるだけ多くベッドサイドへ足を運び、早期退院を目指し診療を進める。

小樽市立病院　神経内科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4週以上

Ⅱ　概要と研修目標

内科一般の一領域としての神経診療について、基本的診療手技を通じて基本的理解を習得する。

Ⅲ　指導医

医療部長　　井原　達夫　（平成２７年１１月１５日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	病棟（外来）	外来	病棟	外来	病棟（外来）
午後	外来	外来	（検査）	外来	病棟
その他	院外カンファレンス（大学）	院外カンファレンス（筋病理諸種集談会）			

・大学及び周辺施設で、適時カンファレンスや検討会、フリー（参加型）セミナーが提供されているので、自主的に参加する。
・経験すべき症例がある等、指導医の判断により札幌市内の協力病院にて研修が可能。
・頭蓋内疾患、神経疾患の救急患者が随時搬送されるため、脳神経外科と共同し、脳血管障害をはじめとする神経救急の一端を経験する。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の指示に従い、外来患者の診察を通じてなるべく多くの疾患を経験し、疾患の多様性を習得する。

（２）　病棟研修

指導医・上級医の下で代表的疾患症例を受け持ち、経過の把握とともに標準的な補助検査（MR画像、筋電図検査）を研修し、併せて初期治療への理解を深める。

小樽市立病院　外科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　８週以上（外科一般外来研修を含む）

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

幅広い外科系疾患に対する診断能力を養い、基本的手術手技を習得する。

術前・術後管理を通じて、患者の全身管理を習得する。

Ⅲ　指導医

副院長　　越前谷　勇人　（平成２２年１月２４日）

主任医療部長　　渡邉　義人　　（平成２７年１０月１７日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	症例検討会 病棟回診 手術	外来 病棟回診	外来 病棟回診 手術	外来 病棟回診 手術	外来 病棟回診 手術
午後	手術	手術 カンファレンス	手術	手術 勉強会	手術
その他	＊術後検査（造影その他）適宜 →			17：00～ 症例検討会	

・毎週月曜日の症例検討会は、手術予定患者に関しての検討を行う。

・火曜日の午後は病棟患者についての多職種合同カンファレンスを行う。

・木曜日の 17：00 からは内科・外科・放射線科と合同で行う症例検討会にて、病理学的所見も含めた多角的検討を行う。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の指示に従い、外来患者を受け持ち、外科的診断・治療のアルゴリズムを習得する。

（２）　病棟研修

指導医・上級医の指示に従い、入院患者を受け持ち、クリニカルパスに基づいた標準的診療計画を習得する。

さらにパスバリアンスに相当する症例の診断・治療・処置を通じて、外科的合理的推論と考察を習得する。

小樽市立病院　心臓血管外科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4週以上

Ⅱ　概要と研修目標

心臓血管外科疾患患者の診療・治療をスタッフとともに行うことにより、対象疾患に対する診療能力の基礎を習得する。

Ⅲ　指導医

主任医療部長　　深田　穣治　（平成２５年３月３日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 外来	カンファレンス 手術	病棟回診 外来	カンファレンス 手術	病棟回診 外来
午後	総回診 カンファレンス	手術		手術	手術

２　研修内容詳細

（１）心臓・血管系の発生、構造と生理機能を理解し、心血管疾患の病因、病態、疫学に対する知識を持つ。

（２）指導医・上級医とともに入院患者の診療を行い、問診、診察及び必要な検査の選択・結果分析から、診断と病態の評価を学ぶ。

（３）手術に助手として参加し、基本手技を学ぶ。
術後管理中における患者の呼吸や循環状態を理解し、それに対する補液管理、薬剤使用法、人口呼吸器調節、補助循環装置や除細動器の操作法などを習得する。

小樽市立病院　脳神経外科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

幅広い疾患の患者の診療を通じて、脳神経外科における標準的診療能力を習得する。

Ⅲ　指導医

副院長　　新谷　好正　（平成２４年９月２３日）
医療部長　　古川　浩司　（平成３１年１月１３日）
医療部長　　岩﨑　素之　（令和２年２月２日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	手術	外来	手術	外来	手術
午後	手術	病棟回診	手術	病棟回診	手術
その他	＊朝カンファレンス →				

・朝カンファレンスにて新患プレゼン、手術予定者の検討、手術後のプレゼン等を随時担当し、脳神経外科疾患における検査・治療戦略、他部門との連携について理解を深める。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

初診患者の予診のほか、指導医・上級医の指導の下で一般的外来診療技術を習得する。

（２）　病棟研修

典型的脳神経外科疾患の入院患者を受け持ち、指導医・上級医の指導の下で基本的診察、検査、手術を含めた治療を学ぶ。

小樽市立病院　整形外科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

整形外科は、主に運動器疾患や外傷（骨折、脱臼など）を取り扱う診療科であり、その治療は単に病気や怪我を治すだけでなく、運動機能を回復させることを目的としている。

最近では高齢化社会に伴い、関節障害、骨粗鬆症に伴う骨折などが増加しており、社会的ニーズも大きくなっているほか、スポーツ障害、小児先天性疾患などの若年性疾患も多く、幅広い年齢層が対象となっている。

当院では、脊椎、上肢、下肢などの全身の運動器官を造っている骨、関節、筋肉、靭帯、腱、脊髄、神経の疾患、外傷による損傷などを診断、治療、研究することを目的としており、研修では基本的に脊椎、上肢、下肢の各分野の指導医・上級医と組みになり、外来診療、手術、病棟での診療を振り返りを行いながら学び、診察能力の向上を図る。

Ⅲ　指導医

医療部長　　佃　幸憲　（平成２７年３月２２日）

Ⅳ　研修内容

1　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	症例カンファレンス 病棟診療 手術	病棟診療 手術	外来	症例カンファレンス 病棟診療	外来
午後	手術 検査	手術 検査	手術 検査	手術 検査	手術 検査

・週に 2 回行う症例カンファレンスを通じて、より症例に対して深く理解することを目的とする。

・毎週月曜日は、朝 7 時 50 分より、手術症例の術後カンファレンス、外来新患症例のディスカッションを行う。

・毎週木曜日は、朝 7 時 45 分より、翌週の手術症例の術前カンファレンスを行う。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

・病歴聴取を学ぶ。
・必要な検査指示を出す。
・指導医・上級医の診察、説明、治療を理解する。
・ギプス固定、創処置、局所麻酔、関節注射などの基本手技を指導医・上級医の下で学ぶ。
・救急症例（骨折、脱臼、多発外傷など）を経験する。

（２）　病棟研修

入院から退院までを受け持ち、病棟での指示、処方、基本検査、周術期管理、リハビリ処方などを学ぶ。

（３）　手術

当院では900件近い手術を行っており、脊椎、上肢、下肢、外傷などほぼ全領域の手術を行っている。

手術助手として参加し、皮膚切開、縫合、骨接合術などを指導医・上級医の下で行う。

小樽市立病院　形成外科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

指導医・上級医と医療スタッフの協力の下で形成外科医としての基本的な考え方、患者との接し方、外来、入院患者の診療、診療録の記載方法、診療計画のプレゼンテーションの方法を学び、形成外科プライマリ・ケアの技術を習得する。

Ⅲ　指導医

医療部長　　今井　章仁　　（平成１８年７月１６日）
医長　　新井　孝志郎　（平成２２年９月５日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来 病棟回診	外来 病棟	外来 病棟	外来 手術	外来 手術
午後	手術	褥瘡回診	外来	カンファレンス	手術

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の指示に従い、麻酔、小手術、縫合等の基本手技を習得する。

（２）　病棟研修

指導医・上級医の指示に従い、創管理を行う。

小樽市立病院　精神科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　4 週以上

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

当科では、院内外の患者に対する外来診療、開放、閉鎖各 40 床（計 80 床）での入院治療を行っており、多様、多彩な症例に接することができる。

年齢層は児童思春期から成人、老年期まで幅広く、総合病院であることから合併症を有する患者も多い。

関連部門として作業療法室、デイケア、臨床心理室、精神科訪問看護、精神科医療相談室、認知症疾患医療センターなどを有し、多職種連携の実際を体験することができる。

精神科診療が対象としている多様、多彩な症例に接することで、精神科疾患に関する理解を深め、精神疾患の概要、面接法、向精神薬の使用法の基礎を習得することを研修の目標とする。

Ⅲ　指導医

副院長　　髙丸　勇司　（平成１６年８月８日）

医療部長　　松倉　真弓　（平成２８年１月３１日）

医療部長　　笹川　嘉久　（平成２８年１月３１日）

Ⅳ　研修内容

１　研修内容詳細

（１）　研修全般

① 精神科医療に関連する法律的知識、人権に関する意識、倫理観を学ぶ。

② 病歴の聴取の方法を学び、基本的な治療関係を築く。

③ 統合失調症、感情障害、認知症の３疾患については、指導医・上級医とともに入院患者の受け持ち医となって症状、病態を把握する。

④ 上記疾患以外に、神経症、不眠症、せん妄、アルコール依存症の診断と治療の基本的知識を習得する。

⑤ 機会があれば精神科救急医療の現場を体験する。

⑥ 他科から依頼を受けた患者の診療・治療、他科の医師・看護師との連携等、リエゾン精神医学の基本的知識・経験を習得する。

⑦ 作業療法、集団精神療法、デイケアに参加し、多職種により連携して行われている精神科特有の治療法について基本的知識を学ぶ。

⑧ 共同作業所、共同住居などの地域精神医療の現場を体験する。

（２）　外来研修

・新患の予診聴取をした後、新患担当医による診察に同席する。
・診察後は症状、病態の把握、治療方針に関する指導を受ける。
・再来患者に関しては随時フォローの場に立ち会う。

（３）　病棟研修

指導医・上級医の指示に従い入院患者を受け持ち、日々の変化を把握しながら診察、検査、治療、対応の実際を研修する。

―指導医より―

研修期間中は、多くの時間を患者さんとともに病棟で過ごしてもらいたい。

医師として診療に当たること、患者の病気を観察することよりも、「人間」として一緒に過ごすことで得られることがきっとあるだろうと考えている。

２　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	作業療法への参加	外来	デイケアへの参加	外来	外来
午後	診療科長総回診 病棟回診	病棟回診	病棟レクへの参加 病棟回診	デイケアへの参加 精神科連絡会議 退院支援委員会	病棟レクへの参加 児童思春期外来 病棟回診
その他	＊17：30～　ミニカンファレンス →		17：00～ 北大精神科Web配信による講演、研究報告等		

・毎日 17:30 から、精神科医師によるミニカンファレンスを行っている。
ここでは、当日の外来新患の概要や入院患者の状況を紹介し、意見交換を行っており、科内の情報を共有するとともに、自らの診療を振り返る場となっている。

小樽市立病院　小児科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　4 週以上（小児科一般外来研修を含む）

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

成長期にある小児の様々な年齢層・幅広い疾患を網羅する。

① 急性疾患、慢性疾患

② 新生児、心臓、腎臓、神経、内分泌、感染、代謝・消化器、アレルギー・免疫、血液遺伝

③ 乳児健診：発育・発達の評価と障害の早期発見

④ 予防接種：疾病予防とともに地域・社会への貢献

小児患者の診療に当たり、看護師ほか多職種のスタッフと良好なコミュニケーションを図ることを学び協力するグループ診療を体得する。

Ⅲ　指導医

医療部長　　小田川　泰久　（平成２５年３月３日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来
午後	一般外来	心臓外来	一般外来	乳児健診 予防接種	一般外来 第１週（金） 神経外来（北大医師） １回／３ヶ月
その他	＊病棟回診（午前：外来前、午後：外来後）→				

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

・新生児、心臓、腎臓、神経、内分泌、感染、代謝・消化器、アレルギー・免疫、血液、遺伝と多岐にわたる小児の急性・慢性疾患を経験する。

・日常の問診から診察を迅速に行い、必要な検査を考慮し、的確な診断を行うことができる。

・専門外来（心臓外来、神経外来）を経験することで、より専門的な知識を身に付けることができる。

・採血・点滴などの小児特有の手技を習得できる。

（２）　病棟研修

・急性疾患が中心となるが、急性期疾患ならではの小児患者の刻々とした状態変化を経験することで、きめ細かな診療方針を習得できる。

・より高度な医療を必要とする小児患者を把握し、適切な治療を施した上で、適切なタイミングで他院・他科へ紹介する。

小樽市立病院　皮膚科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

主に外来診療において、さまざまな皮膚疾患を診て触る機会を得て、皮膚科の common disease の診断・治療ができるようになることを目標とする。

また、多くの皮膚疾患を診療する中で、入院が必要となる重症な疾患・緊急性のある疾患のトリアージができるようになること、皮膚疾患の診断に用いられる検査や皮膚生検を習得し、皮膚病理組織所見の基本を理解することを目標とする。

Ⅲ　指導医

医長　　保科　大地　（平成２６年２月２３日）
医師　　堀田　萌子　（令和２年２月２日）

Ⅳ　研修内容

1　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
	＊検査・手術は適宜行う →				
午後	病棟回診	病棟回診 15：00～ 抄読会	病棟回診	病棟回診 16：30～ カンファレンス	病棟回診
その他			＊希望があれば北大皮膚科のカンファレンスに参加		

・カンファレンスを通じて皮膚症状と病理組織所見との相関について理解を深める。
・抄読会を通じて文献検索の方法を身に付け、英文論文に触れる機会を持つ。
・機会があれば学会発表や論文作成を行う。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

・多くの皮膚科 common disease を診る機会を通じて皮膚科診療の基本を身に付ける。

・皮膚科特有の検査（真菌検査・アレルギー検査・皮膚生検など）の理解を深める。

・ステロイド外用剤などの外用剤や抗ヒスタミン薬、副腎皮質ステロイドなどの使用方法を習得する。

（２）　病棟研修

・帯状疱疹や蜂窩織炎、薬疹などの入院を要する皮膚疾患の診療をイメージできるようになる。

小樽市立病院　泌尿器科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

代表的泌尿器科疾患を診療するための基本的態度・判断力・技術・知識を習得する。
また、外科領域の一分野として実施される泌尿器科の手術について理解を深める。

Ⅲ　指導医

院長　　信野　祐一郎　（平成２１年２月１５日）
医療部長　山下　登　　（平成２２年９月５日）

Ⅳ　研修内容

1　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	外来研修
午後	手術研修	手術研修	手術研修	手術研修	手術研修
その他	＊病棟患者カンファレンス（朝・夕）→		X-P カンファレンス		

・朝・夕の病棟患者カンファレンスで、病状から検査・治療法を共に考え指示出しをする。
・毎週水曜日の X-P カンファレンスで泌尿器科画像診断の能力を養う。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の指示や指導の下で外来患者を受け持ち、予診聴取、記事記載、必要検査の提示を行い、指導の下で行われた検査結果からの診断、治療法について指し示すことで判断力を身に付ける。

（２）　病棟研修

指導医・上級医の指示に従い、入院患者を受け持ち、基本的診療法を身に付ける。

簡単な検査については、指導医・上級医の指導の下で患者・家族に説明することで説明能力を養う。

（３）　到達目標

経験すべき症候のうち、特に泌尿器科分野と関連のある、発熱、排尿障害（尿失禁・排尿困難）を経験する。

経験すべき症病・病態のうち、特に泌尿器科分野と関連のある、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全について経験する。

小樽市立病院　産婦人科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　8 週以上（協力病院での産科研修を含む）

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

当科は将来の specialty に関わらず、女性患者の訴えに対して「女性だから」、「妊娠中だから」と対応に臆することがないよう、general な研修を積むことを目標とする。

思春期から、成人、そして高齢者と女性の悩みや心理状態は千差万別であるため、産婦人科では単に疾患を診るだけでなく、女性のライフスタイルの変化に合わせて対応するスキルが必要となる。

同じ主訴、あるいは同じ診断名であっても、女性患者への対応や関わり方は年齢によって異なるという当科特有の経験を積み、将来に役立てるための研修とすることを第一の目標とする。

また、当科には専門医資格を有する婦人科手術のプロフェッショナルが複数在籍しており、開腹手術から腹腔鏡下手術、そして化学療法まで広範囲にわたる婦人科手術治療を経験することが可能である。

研修のもう一つの柱である産科診療に関しては、近郊の分娩取り扱い施設と連携し、週 1 回程度の出張産科研修や夜間分娩待機（産直）の経験を通じて、周産期医療の本質を経験することができる。

Ⅲ　指導医

副院長　　金内　優典　（平成２０年９月２８日）

医療部長　　青山　聖美　（平成３０年１１月１０日）

Ⅳ　研修内容

１　研修内容詳細

（１）　外来研修

産婦人科外来は訓練された医師による患者対応が必要であることから、必修期間の研修では初診患者の予診を取り、その主訴から必要な検査プランを考え、指導医・上級医に上申することを第一とし、その上で指導医・上級医の外来診察や患者対応に立ち会う研修を行う。

（２）　病棟研修

チーム内の主たる対応者として入院中の患者管理について研修する。

良性・悪性腫瘍手術患者の周術期・術後管理、化学療法患者の治療管理などを指導医・上級医とともに実践する。

（３） 自由選択研修

必修期間（8 週）の研修後、自由選択で当科を希望し、産婦人科臨床についてより深く勉強を希望する場合は、指導医・上級医の指導の下で担当患者の主治医として患者の入院、手術（良性腫瘍手術など）、術後経過管理、退院後の経過観察を第一担当者として行うことが可能である。

また、研修期間中に最低１回の全国学会での発表、論文作成などの学術活動の支援を行うので、産婦人科学に関しての理解を深めることが可能である。

２ 週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 外来	病棟回診 手術	手術	病棟回診 （産科研修）	手術
午後	入院カンファレンス 放射線カンファレンス 病理カンファレンス	手術	手術	外来 入院カンファレンス （産科研修）	手術
その他	夜間分娩待機 （適宜）	抄読会		夜間分娩待機 （適宜）	

・当科では婦人科専門領域のみでなく、放射線治療科との合同カンファレンス、婦人科病理カンファレンスを毎週実施し、婦人科疾患の診断や集学的治療に関する研修を行う。

・当院では分娩の取り扱いはないが、近郊の病院と産科研修の連携がとれているため、週１回の産科研修を行うとともに、適宜夜間分娩待機（産直）を経験できる。

小樽市立病院　眼科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

・視覚器（眼球、視神経、眼球附属器）に関する診療を行う。
・基本的な検査手技を習得する。
・代表的な疾患について診断し、治療の計画を立てられるようにする。
・基本的な手術手技を習得する。

Ⅲ　指導医

医師　　日榮　良介　（令和２年度予定）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日 時間	月	火	水	木	金
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟
午後	検査	検査 手術	検査	検査 手術	検査

２　研修内容詳細

（１）　検査

視力検査、眼圧測定、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、画像検査、電気生理検査の技術を習得する。

（２）　診断

疾患についての知識を身に付ける。

問診、検査結果を解釈・診断し、適切な治療計画を立てる。

（３）　治療

指導医・上級医の指示の下でレーザー治療や翼状片、内反症などの外眼部手術を行うほか、白内障など内眼手術の助手をする。

小樽市立病院　耳鼻咽喉科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　４週以上

Ⅱ　概要と研修目標

耳鼻咽喉科では、研修を通じ指導医の監督の下で入院患者や外来患者の基本的診療及び治療法並びに患者家族との接し方を学び、プライマリ・ケアに必要な基本的態度、判断力、技術、知識を習得する。

Ⅲ　指導医

医師　　髙橋　亜由美　（令和２年度予定）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午前	外来	検査	手術 検査	手術	検査
その他	＊週１回カンファレンスを開催				

・週１回カンファレンスを開催し、稀な疾患や問題症例についての検討を行う。
・耳鼻咽喉科領域における各種検査について勉強会を行い、理解を深める。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

外来において、患者の病歴聴取、問診、基本的な診察、検査、診断、治療という一連の流れを指導医・上級医の下で経験していく。

代表的な疾患やめまいなどの他科との境界領域に関して、適切なトリアージができるようにする。

（２）　病棟研修

病棟において、指導医・上級医の指導の下で入院患者を受け持ち、基本的な診察、検査、実際の手術を含めた治療法の理解、患者・家族への対応方法等を研修する。

また、患者の急変に対し迅速な病態の把握と適切な対処法を学ぶ。

小樽市立病院　放射線診断科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4 週以上

Ⅱ　概要と研修目標

ほぼ全診療科に関わる画像診断について、CT、MRI を中心に、検査の適応、検査の内容なども含め幅広い研修を行う。

多数の症例を経験することにより、画像解剖、正常例での画像所見に習熟するとともに、読影法の要点を学ぶ。

PET-CT を含む核医学検査や IVR の基本的な手技、適応等についても研修できる。

Ⅲ　指導医

医療部長　　市村　亘　（令和２年度予定）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	読影	読影	読影	読影	読影
午後	読影	読影	読影	読影	読影
	＊IVR（症例があれば）→				
その他		月に１回 キャンサーボード		カンファレンスなど	

小樽市立病院　放射線治療科研修プログラム

Ⅰ　研修期間

自由選択　4週以上

Ⅱ　概要と研修目標

放射線治療の基本、適応及び放射線治療計画の基本を習得する。

また、放射線治療中の患者の診察を通じて治療中の状態把握や有害事象の対応などに関する理解を深める。

Ⅲ　指導医

医療部長　　土屋　和彦　（平成２２年１０月３１日）

Ⅳ　研修内容

１　週間予定表

曜日／時間	月	火	水	木	金
午前	外来		外来	外来	外来
午後	治療計画		治療計画	外来	治療計画

・症例に応じ勉強会を行うことでその疾患の理解を深める。

２　研修内容詳細

（１）　外来研修

指導医・上級医の指示の下で外来患者を受け持ち、予診聴取、カルテ記載、放射線治療の必要性を判断し、指し示すことで正確な判断力を身に付ける。

また、診察患者の放射線治療計画を実際に行い、指導医・上級医の判断を仰ぐ。

小樽市立病院　救急（麻酔科）研修プログラム

Ⅰ　研修期間

必修科目　１２週以上

自由選択　　４週以上

※麻酔科における研修期間を、４週を上限として救急の研修期間とすることができる。

Ⅱ　概要と研修目標

当院は特に脳神経疾患、循環器疾患、整形外科疾患の救急患者が多く、また多くの診療科を有するため、高齢者を中心に幅広く救急疾患を経験することが可能である。

① 救急診療において、必須な基本的手技を習得する。

② 一般的な市中病院で多くみられる多彩な救急疾患の現状を知り、その基本的な診察法を習得する。

③ 救急外来における患者対応や家族対応の仕方について学ぶ。

④ 複数患者の診察が重なった場合のトリアージについて学ぶ。

Ⅲ　指導医

主任医療部長	中林　賢一	（平成２９年２月１２日）
医長	川口　亮一	（平成２８年１０月２日）
医長	大槻　郁人	（平成２８年６月５日）

Ⅳ　研修内容

・研修初期（1 週～4 週）は、手術室にて救急の基本手技練習を行う。

・研修中期～後期（5 週～12 週）は、主に救急外来にて救急患者対応を行い、患者がいない場合は手術室にて基本的手技習得練習を行う。

・自由選択として、麻酔科研修を行うことができる。

１　必修科目（救急）の研修内容詳細

（１）　研修初期（1 週～4 週）

指導医・上級医の指導の下で末梢ルート確保及び気道確保の実地訓練、バイタル変動への対処方法について学ぶ。

（２）　研修中期～後期（5 週～12 週）

救急外来にて、主に救急車で来院した患者の診断と治療を担当医師とともに行い、各専門診療科に引継がれた場合には、各診療科の医師から専門的な診断・治療の指導を受ける。

（３）　その他

研修期間を通じ、エコーガイド下中心静脈ルート確保を５回以上経験する。

２　自由選択（麻酔科）の研修内容詳細

指導医と相談し、下記の項目を研修することができる。

（１）　麻酔研修

全身麻酔管理を中心に、挿管から抜管まで一人で行い、麻酔中の全身管理について習得する。

また硬膜外麻酔、脊椎くも膜下麻酔や末梢神経ブロックを経験する。

（２）　集中治療研修

重症患者管理を指導医・上級医と共に行い、集中治療の考え方を学び、人工呼吸器や血液浄化装置の取り扱いについて習得する。

（３）　ペインクリニック外来研修

ペインクリニックにおいて、痛みを持った患者の鎮痛治療や心理について学ぶ。

また、慢性疼痛患者への対応の基本について学ぶ。

（４）　緩和ケア研修

がん患者の鎮痛や鎮静法の実際を経験する。

またカンファレンスに参加し、患者や家族との接し方、多職種での治療、地域連携の重要性について学ぶ。